

大阪府（河南町、千早赤阪村、富田林市）

R3補正
R4当初

31

背景・課題

南河内地域のいちご産地では、ハダニ類やうどんこ病などの病害虫の発生に対して、化学農薬による防除が行われている。農薬の使用量が多いことから、環境への負荷や、薬剤抵抗性の発達も懸念される。加えて防除作業に係る労働時間の削減も課題である。

成果目標と達成状況

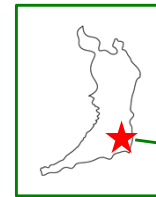
化学農薬に頼らず、省力的な防除技術として、生物農薬利用、紫外光照射、炭酸ガス施用によりハダニ類の発生を抑制する。また、紫外光照射により、うどんこ病を抑制する。

なお、当産地には新規就農者も多く、防除体系を確立しマニュアルを作成することにより、熟練者でなくとも安定した栽培を実現する。

（令和5年10月時点、技術を検証中。）

取組の成果

- 化学農薬の使用量低減
 - ：生物農薬利用、紫外光照射、炭酸ガス施用による使用回数の削減
- 省力化
 - ：農薬使用回数の削減



河南町

構 成 員

大阪府、大阪南農業協同組合、
（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

品 目

いちご



提供：（地独）大阪府環境農林水産総合研究所



紫外線照射（UV-B蛍光灯）



炭酸ガス施用

普及に向けた取組

産地内ほ場にて、天敵製剤、UV-B装置、炭酸ガス施用を活用した栽培体系を検証し、その効果や課題について、関係者と協議を実施。2か年の取組をまとめたマニュアルを作成し、JA・生産者団体等と連携して普及に取り組む。

問い合わせ先

大阪府環境農林水産部農政室推進課地産地消推進グループ
TEL：06-6210-9590